

特 許 協 力 条 約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 03 MAR 2003

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 FP-02003PC	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/ IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO2/00634	国際出願日 (日.月.年) 29.01.02	優先日 (日.月.年)
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ C07C37/20, C07C39/17, C07C41/30, C07C43/23 // C07B61/00, C08G59/04, C08G63/199, C08G64/06		
出願人 (氏名又は名称) 大阪瓦斯株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 2 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

I ☒ 国際予備審査報告の基礎

II ☐ 優先権

III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成


IV ☐ 発明の単一性の欠如

V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

VI ☒ ある種の引用文献

VII ☐ 国際出願の不備

VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 02.09.02	国際予備審査報告を作成した日 10.01.03	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 穴 吹 智 子 	4H 8413
電話番号 03-3581-1101 内線 3443		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (1998年7月)

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
 PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

- ☒ 明細書 第 1~14 ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☒ 請求の範囲 第 2, 8 項、 出願時に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 請求の範囲 第 1, 3, 5, 7, 9 項、 24.12.02 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 4, 6 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1～3、5、7～9	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1～3、5、7～9	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1～3、5、7～9	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

請求の範囲1～3、5、7～9記載の発明において、メルカプトカルボン酸と塩酸中の塩化水素との割合(重量比)をそこに記載される特定の値とする点は、国際調査報告で引用された文献又は当該発明に関連があると認められるいずれの文献にも記載されておらず、かつ、当業者にとって自明なものでもない。

VI. ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

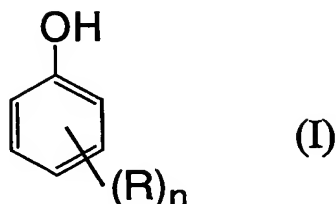
出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2002-47227 A 「EX」	12. 02. 02	31. 07. 00	

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	--

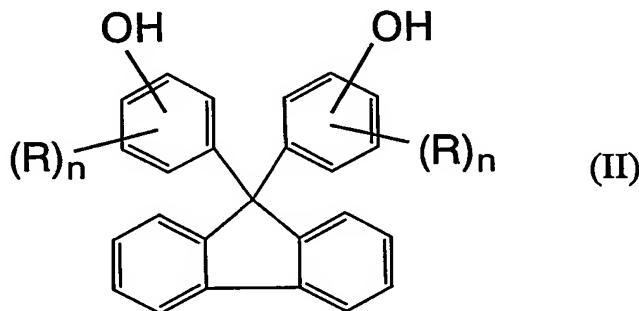
請求の範囲

1. (補正後) フルオレノンと式 (I)



(式中、Rはアルキル基、アルコキシ基、アリール基又はシクロアルキル基を表す。nは0～4の整数を表す)

で表されるフェノール類とを、メルカプトカルボン酸および塩酸の共存下で縮合反応させて、式 (II)



(式中、R及びnは前記に同じ)

で表されるフルオレン誘導体を製造する方法であって、メルカプトカルボン酸と塩酸中の塩化水素との割合(重量比)が、メルカプトカルボン酸/塩化水素=1/0.1～1/3であるとともに、得られた反応混合物に抽剤を添加して目的化合物を有機層に分配させ、その有機層に晶析溶媒を添加する方法。

2. 式 (I) で表されるフェノール類がフェノール又はC₁₋₄アルキルフェノールである請求項1記載の方法。

3. (補正後) 式 (I) で表されるフェノール類が2-C₁₋₄アルキルフェノール又は3-C₁₋₄アルキルフェノールである請求項1記載の方法。

4. (削除)

5. (補正後) フルオレノンとメルカプトカルボン酸との割合(重量比)が、フルオレノン/メルカプトカルボン酸 = $1/0.01 \sim 1/0.5$ である請求項1記載の方法。

6. (削除)

5 7. (補正後) フルオレノンとメルカプトカルボン酸との割合(重量比)が、フルオレノン/メルカプトカルボン酸 = $1/0.05 \sim 1/0.3$ であり、メルカプトカルボン酸と塩酸中の塩化水素との割合(重量比)が、メルカプトカルボン酸/塩化水素 = $1/0.3 \sim 1/2$ である請求項1記載の方法。

10 8. 式(II)で表されるフルオレン誘導体が9, 9-ビス(C_{1-4} アルキルヒドロキシフェニル)フルオレンである請求項1記載の方法。

9. (補正後) フルオレノンと2- C_{1-4} アルキルフェノールとを β -メルカプトプロピオン酸及び塩酸の共存下で縮合反応させて、

15 9, 9-ビス(4-ヒドロキシ-3- C_{1-4} アルキルフェニル)フルオレンを製造する方法であって、 β -メルカプトプロピオン酸と塩酸中の塩化水素との割合(重量比)が、メルカプトカルボン酸/塩化水素 = $1/0.1 \sim 1/3$ であるとともに、得られた反応混合物に抽剤を添加して目的化合物を有機層に分配させ、その有機層に晶
20 析溶媒を添加する方法。